

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル 立体駐車場棟	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊田市深田町1丁目77-1の一部 78の一部 79-2の一部 79-3 80-3 123-3の一部 123-4	構造	S造
用途地域	準工業地域・防火地域法指定なし	平均居住人員	2人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年7月1日
敷地面積	1,901 m ²	作成者	原田孝
建築面積	1,033 m ²	確認日	2025年7月12日
延床面積	2,047 m ²	確認者	原田孝



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE=0.6 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値</p> <p>② 建築物の取組み</p> <p>③ 上記+②以外の</p> <p>④ 上記+</p> <p>100% #DIV/0!</p> <p>100% #DIV/0!</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 2.2		
Q1 室内環境 Q1のスコア=0.0 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 N.A. N.A. N.A. N.A.	Q2 サービス性能 Q2のスコア=2.9 機能性 耐用性 対応性 N.A. 2.8 3.0	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=1.7 生物環境 まちなみ 地域性 1.0 2.0 2.0
LR のスコア = 3.0		
LR1 エネルギー LR1のスコア=0.0 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的 N.A. N.A. N.A. N.A.	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=2.9 水資源 非再生材料の 汚染物質 3.0 2.5 4.3	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.1 地球温暖化 地域環境 周辺環境 N.A. 3.3 3.0

3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 N.A.	③敷地内の緑化 1.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.0 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %	
②資源の有効活用 2.7	④地域材の活用 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

あいちの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル 立体駐車場棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
				評価点	評価点	評価点	評価点			
Q 建築物の環境品質									2.2	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.43			2.9	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性				0.5	2.8	0.52			2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.7	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		2.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23				
2.4 信頼性				0.1	2.4	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	1.0	0.20				
3 電気設備			②	3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20				

3 対応性・更新性			0.4	3.0	0.48	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			0.3	2.2	0.31	-	-	-	-
1 階高のゆとり			-	1.0	0.60	-	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	-	-	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3 床荷重: 3750N/m ²									
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化				3.0	-	-	-	-	-
4 効率的運用				-	-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル									2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	3.0	1.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	5.0	1.00	-	-	-
3 冷媒				3.0	-	-	-	-	-
発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。									
LR3 敷地外環境									3.1
1 地球温暖化への配慮			①	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル 立体駐車場棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.32	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)豊栄交通株式会社新本社ビル 立体駐車場棟

計画上の配慮事項	
総合	物件は自動車車庫ですので、省エネルギーの計算対象外になります。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	$0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$ 床荷重: 3750N/m ²
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	評価対象外。
LR2 資源・マテリアル	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しません。
その他	特になし。